弁護士
田中 秀雄

● やまない雨はない、明けない夜はない

新型コロナウイルス感染症対策で、世界の指導者と安倍首相との間の決定的な能力の差が明らかになった。平時には無能の指導者でも務まるが、今回のコロナ騒動のような有事には無能な大将は兵を死に追いやる。敵より怖い。さすがに今度こそ国民も、安倍首相が嘘つきで無能であることは分かったと思うので、安倍首相の終わりの始まりと思っているが、日本人は元来忘れやすいので不安だ。

緊急事態宣言中は、訴訟事件や調停事件がすべて延期となったので、４月と５月は裁判所に出向くことはなかったが、弁護士の仕事は不要でも不急でもないので、事務所には毎日出て、少ない法律相談を受け、受任事件の処理をしていた。緊急事態宣言解除後、徐々に裁判や調停の期日が入り出しているが、平常のペースに戻るのには時間が掛かりそうだ。五木寛之が「日刊ゲンダイ」の連載「流されゆく日々」で、「八方ふさがり」の状況でも「二方は空いた道があるじゃないか」と書いていた。新型コロナウイルスの第２波、第３波は、いずれ来るだろうし、長期戦になるだろう。それでもやまない雨はない、明けない夜はない、十方ふさがりではない、二方向は残っている。なんとか出来ることからやる、それしかない。

● ８年目の親子鷹

息子との共同の仕事も８年目を迎えたが、相変わらず机を並べて仲良くやっている。息子は若いし、パソコンもスマホも使いこなしているので仕事は早い。私はガラケーからスマホには替えたが、インターネットはプロ野球の試合の進行状況を見るためにスポーツナビを利用するくらいで、相変わらずアナログ人間である。裁判所もＩＴ化を進めようとしているし、コロナのため弁護士会もZoomによるオンライン会議をし始めたので、私のようなアナログ人間には次第についていけなくなってきている。だが、アナログにはアナログの良さがあると開き直っている。

● 新型コロナウイルスと嗜好の変化

コロナで緊急事態宣言後は、事務所には毎日出ていたが、相談も少なく比較的暇だったので早く帰宅することが多かった。行きつけの店もコロナで休業していたので、家で食事を摂る回数が増え、おやつを食べることも増えた。そのためか嗜好が変わってきた。味噌汁も薄味になり、以前は好きだった塩鮭など塩辛いものを控えるようになり、夕食後は妻とともにケーキや和菓子などが欠かせなくなった。これまでは妻から塩分の摂り過ぎとずっと怒られても直らなかったのに、思わぬコロナの副産物に妻は喜んでいる。日本酒好きは変わらないが家では缶酎ハイ１本で済むようになった。これでちょっとは長生きできるかも。

● 新型コロナウイルスと離婚

緊急事態宣言中のコロナによる外出自粛で、夫婦や家族が家にいる時間が増え、経済面で影響が出て、喧嘩や家庭内暴力が発生し、夫婦が離婚を考えるようになったり、実際に離婚したりする「コロナ離婚」が増えていると言われている。しかし、私はそのような相談を受けたことはない。コロナで経済面や生活面で様々な影響が出ている中で、家庭内不和が起きることは仕方がないとしても、それが離婚というところまでいくとすれば、コロナが引き金になっただけでその夫婦はいずれどこかで離婚に向かう運命であったのだろうと思っている。

● 新型コロナウイルスと巨人軍と私

コロナで開幕が遅れていたプロ野球が６月19日から２ヶ月遅れで始まった。無観客でも私のような野球ファンにはたまらなくうれしい。私はテレビ観戦しかしないが、小学５年生の頃からの筋金入りのジャイアンツファンで、ＣＳでジャイアンツ戦を見て、ジャイアンツが勝った翌日はお礼に「スポーツ報知」を買い、月曜日の夜はＣＳのジャイアンツチャンネル「日テレＧ＋」で「徳光和夫の週間ジャイアンツ」を見て、「月刊ジャイアンツ」を毎月購入するくらい、すべて巨人を中心に生活している。私にとって妻はもちろん大事な存在だが、ジャイアンツも同じ程度かそれ以上に大事だ。

今年のジャイアンツは、開幕早々突っ走り、８月７日現在首位にいるので、気持は高揚している。広島もDeNAも強そうだが、今年は試合数が120試合しかないので、逃げて逃げて逃げ切ってほしい。

新潮新書で「令和の巨人軍」という本が出た。昭和、平成、令和の三代にわたるジャイアンツの戦いぶりを分析したもので、巨人ファンにはたまらない本だ。著者の中溝康隆という人は私なんか足元にも及ばないくらい熱狂的なジャイアンツファンのようで年間30から40試合くらい東京ドームで観戦するらしい。この人が今の巨人軍が一番面白いと書いているが、私も同感である。菅野がいて、坂本、丸、岡本が引っ張る今の巨人軍がこの先どう化けるか楽しみだ。